

# 北部機械金属業界の景況動向

(2009年10～12月実績/2010年1～3月見通し)

○ 調査対象：舞鶴市以北3市2町の機械金属関係企業125社 【調査時点 平成21年12月下旬】

○ 回答数：70社（内訳は以下のとおり）

① 市町別 = 舞鶴市 13、宮津市・与謝2町 12、京丹后市 45

② 業種別 = 一般機械 23、電気機械 5、輸送機械 13、精密機械 19、その他 10

(区分) 一般機械…工作機械、産業機械部品等

電気機械…家電部品、電子部品等

輸送機械…自動車部品、船舶等

精密機械…半導体・液晶関連、精密機械部品等

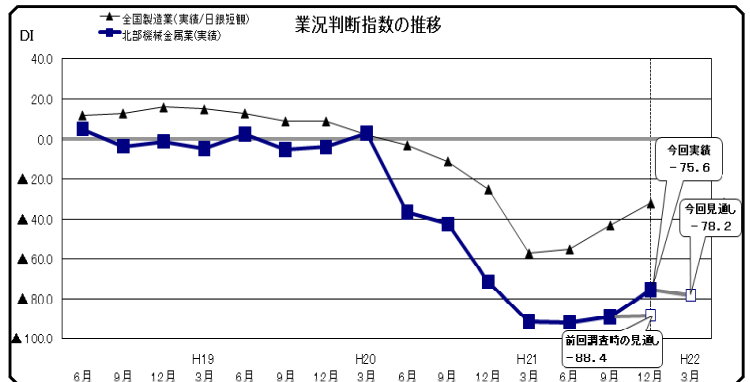
③ 従業員数別 = 10人未満 26、10～50人未満 27、50人以上 11、不明 6

※アンケート調査の他に一部企業の訪問調査を実施 【調査機関：財団法人京都産業21北部支援センター】

## － 調査結果 －

### 1 景況動向判断

● 10～12月実績のDI（業況判断指数）は、前回調査（7～9月分。以下「前回」という）の-88.8から13.2ポイント改善し-75.6となった。「非常に良い」とする企業は皆無であったが、「良い」と回答した企業が7.2%（前回2.8%）と微増した。地域別では、舞鶴市域が-92.3（前回-61.5）と悪化した一方で、宮津市・与謝2町域は-83.3（同-100.0）、京丹后市域は-68.9（同-93.3）と、マイナス域ながらも改善が見られた。地域により景況感に差が見受けられ、一部で持ち直しの傾向もうかがわれるが、「悪い」「非常に悪い」と回答した企業が未だ全体の8割を越えており、引き続き低水準の厳しい状況にある。



注：DI = (非常に良い+良い) - (非常に悪い+悪い)

● 業種別では、電気が20.0（前回-100.0）と大きく改善し、精密-73.6（同-93.8）、輸送-92.3（同-100.0）でも若干の改善が見られるが、一般-82.6（同-81.2）、その他-90.0（同-88.9）では依然底を脱しておらず、業種により回復感に差が見られる。

● 1～3月見通しのDIは、前回10～12月見通しの-88.4よりも10.2ポイントプラスの-78.2となった。しかし、今回実績DI-75.6との比較では、更に2.6ポイントの悪化が見込まれている。製造業などでは景況が緩やかに持ち直してきているとの見方もあるようだが、北部地域では依然として厳しい見通しが続いている。

	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い
全体	7.2	10.0	51.4	28.0	3.4
一般	8.7	15.8	52.2	23.3	39.1
電気	40.0	15.8	40.0	15.8	20.0
輸送	7.7	15.8	69.2	7.3	23.1
精密	5.3	15.8	42.1	31.6	36.8
その他	10.0	15.8	60.0	14.2	30.0

	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い
全体	2.9	16.0	53.6	27.5	2.9
一般	4.3	17.4	43.5	34.8	34.8
電気	40.0	15.8	40.0	15.8	60.0
輸送	7.7	15.8	84.6	7.7	7.7
精密	5.3	15.8	42.1	31.6	36.8
その他	11.1	15.8	55.6	17.5	33.3

### 2 採算状況

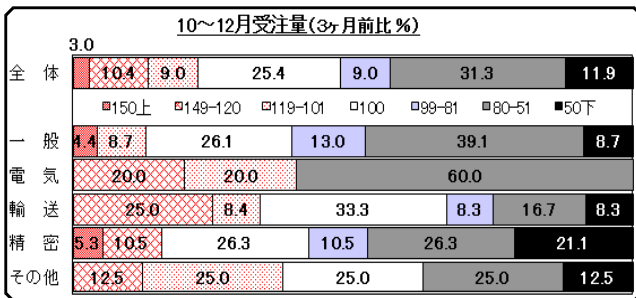
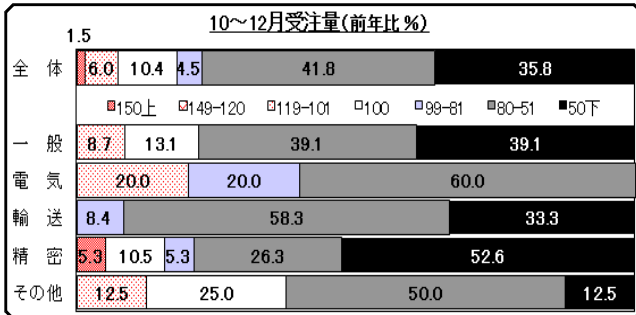
● 10～12月の採算状況は、黒字とする企業が4.3%（前回1.4%）、赤字とする企業は74.3%（同77.8%）となった。依然として7割以上の企業が赤字であり、経営状況の改善には未だ至っていない。

● 業種別では、輸送・精密・その他の3業種で黒字とする企業が見られた（前回一般のみ）。一方で、電気を除く4業種では赤字が6割を越えている。

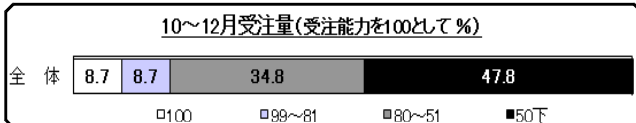
	黒字	黒字率	赤字	赤字率
全体	4.3	21.4	74.3	74.3
一般	17.4	17.4	82.6	82.6
電気	0.0	0.0	20.0	20.0
輸送	7.7	30.8	61.5	61.5
精密	5.3	10.5	84.2	84.2
その他	10.0	10.0	80.0	80.0

### 3 受注量

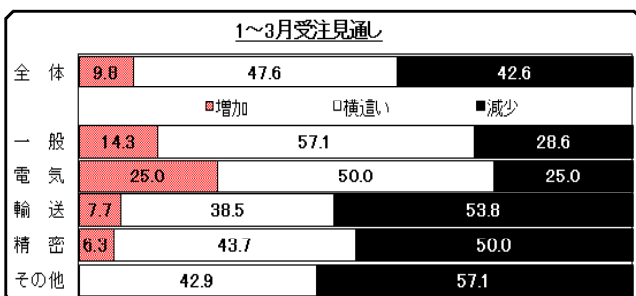
●10～12月受注量は、景況の悪化が鮮明化した昨秋との比較で、対前年同期100%以上とした企業が17.9%（前回2.8%）となり、業種別では、輸送を除く4業種で、100%以上を確保した企業があった。また、対3箇月前比100%以上を確保した企業は47.8%（同49.4%）でほぼ横這いとなったが、一般・精密の一部に150%以上とする企業も見られた。受注量から見ると回復傾向にあるとも映るが、今回実績・来期見通しからみると、本格的な回復傾向にあるとはまだまだ言い難い。



●受注能力を100とした10～12月受注量（稼働割合）では、100%とした企業は8.7%（前回2.8%）と若干増加したが、依然として82.6%の企業が8割以下の稼働割合となっている。業種別では、精密・その他の2業種の一部で満杯とする企業もある。

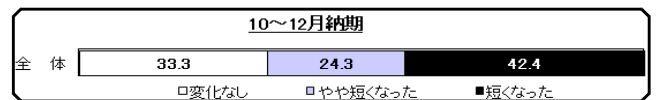
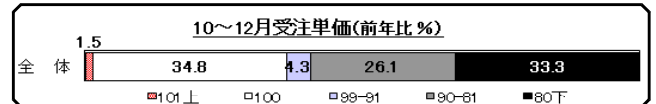


●1～3月受注見通しは、増加を見込む企業が9.8%（前回8.1%）とやや改善が見込まれる一方で、減少を見込む企業も42.6%（同32.2%）となった。また、業種別では、その他を除く4業種で増加を見込む企業がある一方、輸送・精密・その他では約5割の企業が減少を見込んでいる。



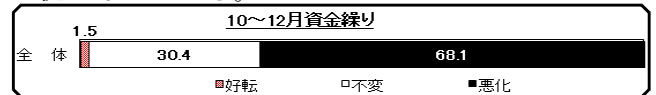
### 4 受注条件（受注単価／納期）

●受注単価について、下がった企業が63.7%（前回53.8%）となり、依然厳しい経営を強いられている。また、納期については、「やや短くなった」「短くなった」と回答した企業が66.7%（前回64.3%）と、今も短納期対応を迫られる状況に変わりにない。



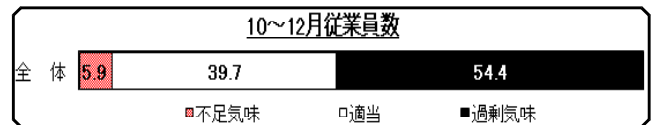
### 5 資金繰り

●資金繰りは、好転とした企業が1.5%（前回皆無）となった。横這いは30.4%（前回30.6%）、悪化は68.1%（同69.4%）と、引き続き厳しい財務状況となっている。



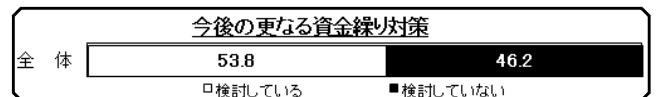
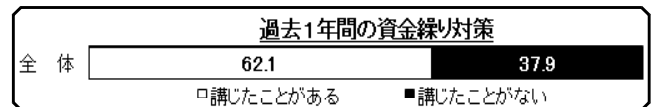
### 6 従業員数

●従業員数は、過剰気味が54.4%（前回61.4%）と依然として5割を超えている。業種別では、電気を除き、4業種で5割以上が過剰気味としている。



### 7 資金繰り対策

●6割以上の企業が、過去1年間に資金繰り対策を行っている。また、更に今後も対策を検討している企業も5割を超えており、苦しい経営状況がうかがわれる。



### 8 平成22年の経営課題（複数回答可）

●コスト削減（36社）、新規取引先の開拓（32社）、品質向上（21社）、収益性向上（21社）、技術系人材育成（20社）が上位を占めた。

### 9 設備投資

●設備投資は、「実施中」又は「計画中」とした企業は15.8%（前回10.3%）と若干改善した。業種別では、その他の全てが「計画なし」と回答した。

